

国語シラバス 高校2年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 論理国語	2 単位	第 2 学年 《必修》	・『高等学校 論理国語』（第一学習社） ・『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500 三訂版』（いいずな書店） ・『現代文 キーワード読解〔改訂版〕』（Z会）
学習の到達目標	①社会生活において必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。大学入試に頻出する現代的なテーマを扱った評論を読み、論理的な見方や考え方を養う（知識・論理的思考力）。②他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす（表現力と共感力）。③言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う（探究力と想像力）。		
評価の観点	基本的な漢字・語彙や、評論文が扱う概念・思想などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》 叙述をもとに内容・構成・論理の展開などを的確に捉え、目的や意図に応じた根拠の示し方や説明の仕方により、読み手の理解を得られる表現ができている。《思考力・判断力・表現力》 自らの力で主体的に本文を読み解き、内容や構成を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。希望進路を見据えて自らの目標を設定し、それに向けて主体的に課題に取り組む。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間 5 回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考・判断・表現》《主体的に学習に取り組む態度》の 3 観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
- D：未提出、未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期 中 間 考 査 ま で	①『『私』中心の日本語』 (森田 良行) ②「手の変幻」 (清岡 卓行) ③漢字テスト	・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。 ・二項対立的な図式による論述の読解方法を身につける。 ・本文中に多数挙げられていることわざや慣用表現を理解し、言葉への感性や洞察力を深める。 ・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。 ・学習課題に沿って積極的に慣用表現について調べたり、表現効果について考えたりすることで、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	【◆：重要キーワード／テーマ】 ◆日本語・日本文化 ◆世間 ◆芸術 ◆象徴的意味 ◆逆説 ◆アイロニー
1 学 期 期 末 考 査 ま で	①「越境する動物がもたらす贈り物」 (矢野 智司) ②「自他の『間あい』」 (鷺田 清一) ③漢字テスト	・物語に描かれた人間と動物との関わりについて、筆者の主張とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。 ・『『異類婚姻譚』で描かれる『悲劇』について調査し、自分の考えを深める。 ・言い換えや比喻を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。 ・抽象度の高い概念について、言い換えや比喻を読み解きながら粘り強く考察する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	◆他者 ◆異類 ◆物語 ◆境界 ◆贈与交換 ◆アニミズム ◆自己 ◆他者 ◆アイデンティティ

2 学 期 中 間 考 査 ま で	①「A I 時代の社会と法」 (小塚 莊一郎) ②「働かないアリに意義がある」 (長谷川 英祐) ③漢字テスト	・ A I (人工知能) の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 ・ 本文を粘り強く読み、テクノロジーの進化が経済活動にもたらす変化に関する筆者の主張を理解する。 ・ 実験をふまえたアリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	◆生命倫理 ◆科学 ◆テクノロジー ◆社会 ◆労働 ◆グローバリズム ◆基礎研究
2 学 期 期 末 考 査 ま で	①「コミュニティ空間としての都市」 (広井 良典) ②「身体の個別性」(浜田 寿美男) ③漢字テスト	・ 情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。 ・ 三つの調査に関するデータ(グラフ含む)を読み、分析、背景(要因)の考察、筆者の提案をそれぞれ把握する。 ・ 学習課題に沿って、「都市型コミュニティ」の中の居場所について考える。 ・ ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。 ・ 筆者が指摘する「自己中心的利他性の弊」について理解した上で、問題を自身に引きつけて考える。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	◆ウチとソト ◆タテ社会 ◆高齢化 ◆核家族 ◆居場所 ◆コミュニティ ◆都市・地域政策 ◆自己中心性 ◆脱中心化 ◆利他主義

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①「なぜ多様性が必要か」 (福岡 伸一) ②『『第二の身体』としての メディアと技術』 (若林 幹夫) ③漢字テスト	・動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 ・「ニッチ」「動的平衡」「生物多様性」等の語句(キーワード)の示す概念や本文中における使われ方について、丁寧に整理しながら読み解く。 ・メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。 ・主張を支える豊富な具体例を読み解き、メディアによる意識や社会関係の変容について、理解と考察を深める。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	◆生物多様性 ◆ニッチ ◆動的平衡 ◆地球環境 ◆サステイナブル ◆パラダイム・シフト ◆身体 ◆コミュニケーション・メディア ◆他者性
そ の 他	(年間を通して) ○現代文問題演習 (大学入試対策) ○現代文キーワード (定期考査範囲に設定)	・自身の目標に合わせて課題を選定し、計画的に自学自習をする習慣をつける。 ・評論文読解に必要な語句や概念に関する知識を習得する。	・問題演習 ・要約トレーニング ・『現代文 キーワード読解 [改訂版]』(Z会)

【成績評価の概要について】	
(1) 学期における評価の対象 ① 中間考査：100点《知識・技能》《思考・判断・表現》 ② 期末考査：100点《知識・技能》《思考・判断・表現》 ③ 平常点（授業内小テスト、提出課題等） ：50点《知識・技能》《思考・判断・表現》《主体的に学習に取り組む態度》 (2) 学期評定の算出方法 定期考査の素点合計 200 点に対し、平常点合計は 50 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 定期考査の素点合計 500 点（5 回分）に対し、平常点合計は 125 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。	